

『平成27年～29年 環境計量士（濃度関係） 国家試験問題 解答と解説 2. 環化・環濃』 正誤表
 このたびはお買い上げ誠にありがとうございます。本書には、下記のような誤記がありました。お詫びして訂正いたします。

ページ	箇所	誤	正																																	
20	ページ最下行に続けて追加	—	…をつぎの表に示す。一般に酸の(第一または第二)電離定数は、 K_a もしくは pK_a の値で表される。 pK_a は K_a の逆数の常用対数をとった値である。単純に酸の電離定数といった場合は K_a の値を指すので、設問中の電離定数は K_a の値であると判断できる。ただし、 K_a は10のマイナス何乗という値になるため取り扱いが煩わしいことがあり、 pK_a の値で議論することが多い。その際は「 pK_a 」と明記して議論をする。																																	
	表	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第一電離定数 pK_{a1}</th> <th>第二電離定数 pK_{a2}</th> <th>融点/°C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フタル酸</td> <td>3.03</td> <td>4.54</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>マレイン酸</td> <td>1.93</td> <td>5.2</td> <td>133</td> </tr> </tbody> </table>		第一電離定数 pK_{a1}	第二電離定数 pK_{a2}	融点/°C	フタル酸	3.03	4.54	300	マレイン酸	1.93	5.2	133	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">第一電離定数</th> <th colspan="2">第二電離定数</th> <th rowspan="2">融点/°C</th> </tr> <tr> <th>K_{a1}</th> <th>pK_{a1}</th> <th>K_{a2}</th> <th>pK_{a2}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フタル酸</td> <td>9.33×10^{-4}</td> <td>3.03</td> <td>2.88×10^{-5}</td> <td>4.54</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>マレイン酸</td> <td>1.17×10^{-2}</td> <td>1.93</td> <td>6.31×10^{-6}</td> <td>5.2</td> <td>133</td> </tr> </tbody> </table>		第一電離定数		第二電離定数		融点/°C	K_{a1}	pK_{a1}	K_{a2}	pK_{a2}	フタル酸	9.33×10^{-4}	3.03	2.88×10^{-5}	4.54	300	マレイン酸	1.17×10^{-2}	1.93	6.31×10^{-6}	5.2
	第一電離定数 pK_{a1}	第二電離定数 pK_{a2}	融点/°C																																	
フタル酸	3.03	4.54	300																																	
マレイン酸	1.93	5.2	133																																	
	第一電離定数		第二電離定数		融点/°C																															
	K_{a1}	pK_{a1}	K_{a2}	pK_{a2}																																
フタル酸	9.33×10^{-4}	3.03	2.88×10^{-5}	4.54	300																															
マレイン酸	1.17×10^{-2}	1.93	6.31×10^{-6}	5.2	133																															
21	上から1行目	…第一電離定数が小さい。これは、マレイン酸…	…第一電離定数 K_{a1} が大きい。マレイン酸…																																	
	上から4行目	…有利になり、 pK_{a1} はフマル酸より小さくなる。…	…有利になるため、 K_{a1} はフマル酸より大きくなる。…																																	
	上から6行目	…不利になり、 pK_{a2} はフマル酸より大きくなる。…	…不利になり、 K_{a2} はフマル酸より小さくなる。…																																	
	上から7行目	…がないため、前者より pK_{a1} は大きい、二つ…	…がないため、マレイン酸より K_{a1} は小さいが、二つ…																																	
	上から8行目	…有利になり、 pK_{a2} は前者より小さくなる。このような…	…有利になり、 K_{a2} はマレイン酸より大きくなる。このような…																																	
37	解説、式(1)	$CrO_2^{2-} + 14H^+ + 6e^- \rightarrow 2Cr^{3+} + 7H_2O$	$Cr_2O_7^{2-} + 14H^+ + 6e^- \rightarrow 2Cr^{3+} + 7H_2O$																																	
	解説、式(3)	$CrO_2^{2-} + 14H^+ + 6I^- \rightarrow 2Cr^{3+} + 3I_2 + 7H_2O$	$Cr_2O_7^{2-} + 14H^+ + 6I^- \rightarrow 2Cr^{3+} + 3I_2 + 7H_2O$																																	
90	ページ最上部図の左側(エノールの「CH ₂ 」の腕の数とエノラートの「O」の腕の数)	<p>エノール化 $R-C(=O)-CH_3 \xrightleftharpoons{H^+} R-C(OH)=CH_2$ エノール $R-C(=O)-CH_3 \xrightleftharpoons{M^+} R-C(O^-)=CH_2$ エノラートの生成</p>	<p>エノール化 $R-C(=O)-CH_3 \xrightleftharpoons{H^+} R-C(OH)=CH_2$ エノール $R-C(=O)-CH_3 \xrightleftharpoons{M^+} R-C(O^-)=CH_2$ エノラートの生成</p>																																	
142	2行目の式	$A = \log \frac{I}{I_0} = \epsilon CL$	$A = -\log \frac{I}{I_0} = \epsilon CL$																																	
165	式(3)	$A = \log \frac{I}{I_0} = \epsilon Cl$	$A = -\log \frac{I}{I_0} = \epsilon Cl$																																	